



大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和7(2025)年
9月号
通巻 661号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和7年9月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷製本
★定価 1部 300円
★年間購読料 3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



2015年、青森県十三湖方面から岩木山を望む 石田勝利さん撮影(文・4頁)

昭和54年11月14日の対談の再編集版(当時、法主満68歳、竹内氏満54歳)

頭幽一如の世界(1)

対談：法主 矢追日聖×竹内敏晴

生いたちから

岸田 演劇なんて言うのと、法主様とは何か分野が違うという感じが……。
法主 どんなんか知らんけど、何か特殊な演劇やってはんの？
竹内 生いたちからお話した方が早いと思うんですが。私自身、耳が聞こえなかったんですね。しゃべることでもできな

今回紹介するこの対談は、昭和54年11月14日に大倭の瑞光院で約5時間にあたって行われたものを編集部でまとめたものです。本紙の昭和59年11月号と12月号に一括して掲載されたことがあるのですが、貴重な記録であるので、ぜひ目を通して頂きたいと考え、再編集した上で再度お届けすることにしました。

対談相手の竹内敏晴さんのプロフィールは3頁に載せておきましたが、ご自身の聴覚障害を少しずつ克服しながら演劇や教育などの分野でユニークな活動を展開された方です。著書の『ことばが劈かれるとき』(思想の科学社)は「からだごとことば」のあり方を新鮮な切り口で語って大きな反響を呼びました。

当日同席していて発言しているのは、当時の「竹内演劇研究所」のスタッフであった三好哲司さんと、本紙編集部の杉本順一と岸田哲です。

(編集部)

かったわけでした。16歳の時、新薬ができて、それから聞こえるようになって話すことも少しずつできるようになってきたわけですが、学校へ行っても、やっぱり言葉がちゃんと話せない。そうすると、人と、意味は通じますがどね、人と触れるということができないという感じがあまりまして……。

今のような話し方ができるようになりましたのは大体、7、8年前なんですね。それでその間に、ゴチャゴチャ苦労したことがあって、そういうこともいくらか役に立つ人達があるらしくて、何やかんやと集まってレッスンをしているうちに、初めは役者になる人達が私の所へ集まって来てたんですけれども、全くそうじゃない、言葉が不自由とか、人前でつきあえないとか、そういう人達もみえてきたんです。ですから芝居には違いないんですが、大分はみ出してきています。

こちらへ伺った人で、私の知り合いの人が大分おるんです。今日は見学だけさせてもらえるというつもりが、思いがけず大まともにお目にかかって。

法主 私はまた今日は変わった、ええ話、聞かせてもらえるのかなあと思うて。

岸田 三好さんの話だと、レッスンをしていると、ここでいえば霊動というのかそんな感じになるようなやり方もあるらしい。本屋さんに行くと、竹内さんの書いた本は、社会福祉のところに置いてあったり、自閉症の治療というような本と並んでいたりするんです。

法主 自分自身の現在意識やない意識で動くような劇なんやね。

竹内 まあ劇以前でしょうけど。稽古と言いますか、レッスンで言いますか。三好君なんかはなかなかそういうふうにはいかなかった人なんです

が。

三好 前に法主様に、面をつけてするレッスンのことをお話ししたんですが、ご記憶ですか。

面のレッスン

竹内 今、面をつけて芝居をやると言っても、般若の面をつけてると、異様な感じがすると、外から見ての方からの感じだけですね。——どうも面とはそういうものじゃないんだろ、と。まあ僕が般若の面をつけたら、般若の面が生きているんだって、僕が生きているということとは違うだろうと思うんです。

初めからそういうことを考えたわけではないんですけれども、単純な面のレッスンみたいなものをやっているうちにいろんな事が出てきた。本当にある集中をしてくるとですね。

法主 なるほどね。謡曲なんかの時は、皆、面をかぶるとるわね。

竹内 面をつけた時には、普通の言葉は喋らんわけですね、だから謡いになるわけで謡いしかししょうがない。それともう一つは、昔の文献を調べてみると、狂女の面をつけてやると、本当にそうなたちやってコントロールが効かなくなってしまう。今、その動きが完成する前でしょうけども、今でも、三好君達の仲間なんかがやると、そういう状態になります。

三好 体の方が勝手に動く時は、自分では考えもつかないほど良い動きが出て来る時があるんですね。僕は昔は全然無器用でね、鉄棒もマツト運動も体が堅くて動かなかったんだけど、それがちょっとずつ変わってきて……。

竹内 こういう話からいきなり始まるとは思わな

かった(笑)。

鎮魂と憑依現象

法主 大体、謡曲の起りというのは、鎮魂の行事から出発していると思うんだけどね。例えば、片方に荒ぶる神のようなのがあって、それを誰かが鎮めていく、というようなね。あなた達、経験があるかないか知らんけど、鎮魂なんかやっている、憑依霊の現象なんかが出て来るんですよ。自分の意志以外の動きで。

竹内 実際に具体的な誰かが憑くわけですか。

法主 そうですね。例えば昔の三輪山の物語がありますね。本当の蛇のような状態になってくるわけです、自然に。そんなのは昔の神事とか鎮魂の行事とか、そんな時によく出てくるんですが。一番、感じとしてきれいなと思うのはお宮さんでやっている巫女さんですね。緋の袴をはいて白い着物を着て神の枝を持つとかね。現在は、踊りの型があります。けれども古代の場合は、固有霊が巫女さんに憑ってくる場合が多いんです。

固有霊というのは分かりやすく言うと、いったん人間に生まれている人が亡くなって、その生命体だけが残ったものです。生きているものには皆、生命体というものがあるんやから、肉体が亡くなると、その時の生命体だけが残るんです。

それは一つの波長ですから、こちらに機械を置いて電波で操縦すると向こうで思うように動くというのと一緒でね、生命体の念の力で、巫女さんが無意識状態になって勝手に動きが出るんですよ。昔の人は、神体山というか山に固有霊が籠っているという考え方で、その下に清浄な川があるとその河原で、祭りの行事をしたもんです、まだ神社の無い時代ですね。

固有霊には、意志、つまり心があります。人間も一緒です。皆、心の中に固有霊つまり生命体を持っています。そうするとその河原が、固有霊つまり肉体を持たない人間と、生きてる人間との交流の場なんです。肉体の持たない人間もたくさんいるわけです。肉体を持っている人間もいるんですね。そこで交流する場合、言葉のやりとりではなしに、念と念との、お互いに心と心の交流なんです。それを形に表現してこそお互いに通ずるんで、そんな時に巫女さんがおるんですよ。まあ10人から15人おるんですね。固有霊の念とか思惑が形の上で、皆、巫女さんに憑ってくるんですよ。その動作を見ていろんな事を感じるわけなんです。それが神楽なんです。巫女さんの起りはこれです。

その頃は、農耕中心の文化ですからね、今年から今年1年の占いをたてて、例えば豊作であるのか不作であるのか、と。そうすると、虫が多いとか、大きな雨が降るとか、天気が多いとか、巫女さんが一人一人皆、踊りの中で示すわけなんです。踊っている本人は何も知らないんです。それをこちらで見ているあやどやとか感じるんやね。現在の巫女さんのお神楽は一種の芸能だけれども。昔は踊りによって神さんの意志が分かるという、それが日本の舞踊の起りですね。

憑依と潜在意識

岸田 竹内さん達の場合、そういう憑依みたいな感じとは違うんですか。

竹内 憑依ということになるのかならないのか。法主 いろいろな場合があるね。憑依現象で、踊りとかに出てくる人もあれば、自分の自己意識という潜在意識でもって出てくるものもあるんだ。

●竹内敏晴（たけうち・としはる）

1925（大正14）年、東京生。演出家。東京大学文学部卒。ぶどうの会、代々木小劇場＝演劇集団・変身を経て、72年竹内演劇研究所開設（～86年）。79～84年宮城教育大学教授。その後も「からだことばのレッスン」に基づく演劇創造、人間関係の気づきと変容、障害者療育に取り組みつづける。2009年9月7日死去。

著書に『ことばが劈かれるとき』（思想の科学社、のちちくま文庫）『声が生まれる』（中公新書）『生きることのレッスン』（トランスビュー）『「出会う」ということ』『レッスンする人——語り下ろし自伝』（藤原書店）など多数。

（『セレクション 竹内敏晴の「からだ思想」』〈藤原書店〉による。）

すよ。
竹内 その区別は今のところ私なんかにはよく分からないんです。とにかく自分の体が自分の意識ではなくて動かされているという事は確かであって、その場合、何もかも忘れていてという風じゃなくて、自分がどう動いているのかはある程度見えますけどね。しかし自分が動かししているんじゃないわけ。
法主 そうです、そうです。横からの憑依霊でもって動きが出てくる場合もあれば、現在の自分の自己意識によって動きが出てくる場合もあるし、また自分のいつかの過去においてやってきた経験者であれば、その深い潜在意識が出てくる場合もありますし、人によって皆、違うと思いますけどね。

も。

竹内 私達のは、憑依というよりは、その潜在意識的なものだろうと思いますけれども、面なんかつけますよね、初めは表情の無い面から始めるわけなんです。表情の無い面の時に起こってくる事と表情の有る面の時に起こってくる事と、かなり次元が違うんです。表情の有る面、ある段階まで行くと、憑依というより他ないみたいな事が出てくることはありますね。

法主 それはいろんな場合があると思いますけどね。例えば千年前、奈良朝頃の面があると思いますね、その面を使っていた人がおるわけですよ。それに対してかなり意欲を燃やしているような人が使った面であれば、現代の人がそれを使った時に、過去に使った人の憑依現象が出てきます。そんな場合もあります。

私もちやうどそんな経験は持っています。私は踊りじゃないですけど、道場で長年、剣道をやってたんです。そんな時なんか全然自分の意志が無うたかて勝手に技は出ますしね。相手の出ようによつては体を使って教えてくれるから覚えやすいですけれどね。

竹内 私の場合は、父の家が柔の教えなんですけれども、私がやったのは弓なんです、体が弱くて。柔術は、じいさんから子供の頃に、型です、初歩だけ習いました。じいさんは天神真揚流（てんじんしんようりゅう）で後の柔道の嘉納治五郎の兄弟子にあたったらしいのですけどね。私は、耳が聞こえ始める前、弓をやりました。

声が届く

法主 初めは耳が聞こえなかったんですか。
竹内 生後数ヶ月で中耳炎になって、物心ついた

時には、難聴で、喋れなかったです。

法主 随分不自由やったでしょう。

竹内 始めから聞こえないと不自由という事の内容が違うわけですね。聞こえた人が聞こえなかったというのと違うから。

岸田 で、聞こえるようになったのは？

竹内 16歳の時に新薬ができましたね。それで耳だれが治ってくると同時に。しかし、左耳は、何年か前に、放っておいたら頭蓋骨に穴があくと言われて手術をして結果としては失敗で、病巣はとれたものの聞こえなくなっちゃったんです。

法主 今だったら普通では聞こえるんですね。

竹内 こういう風に静かだと聴こえるんですけど。音の来る角度によって難しい事もあります。

一番苦労したのは言葉を獲得する過程でしたけども。喋れるようになってから後でも本当に人につながらないんですね。人の話は聴こえるわけですが、けれども自分の言葉が人に通っているかどうか分からないんです。子供の時から喋る訓練をしてないんですから、発音するという事がどういう事か知らないわけです。それが分かる迄が随分かかりましたね。

今のように普通の感じで喋れるようになったのは、7、8年前。演劇のレッスンの中で、体の問題に気がついてやっている時初めて。その時にはびっくりしたんですけれどね。人と話をするってのはこんなに楽な事かと。それ迄は、モニタールームというのがありますが、あそこで、間にガラスみたいなのがあって喋っているみたいでね。例えば法主さんと話しているも、僕が話している声がそちらへ行っているという感じがしないんですな。どうしても人とながれないという感じがあったんですけれどね。

今は言語障害の人達のお手伝いをする機会が多

い。大体、言葉が喋れない人の方じゃなくて、それを指導している方の人に文句をつけるとというのが今の状態です。

法主 こんな、ある程度経験が無いと分からないわね。

竹内 どんな言語学の本を読んでも大体、発声器官からどう声が出てどう行くかと、こっちの方の事は書いてあるんだけど、出た音がどういう風に向こうに届くかという事を書いてある発声の本は無いわけですね。聴く方は聴く方でまた書いてあるわけですけども、どうもあれは人間の声とか言葉の音声学やないような気がします。スピーカーから出る音と同じみたいで。

何かどうも喋らされたような(笑)。

岸田 その指導する方の人には、こういうことをおっしゃっているんですか。

竹内 例えば岸田さんが喋ってらっしゃるのを聴くでしょう。するとこういう発声だと、この人はどこに緊張があるかっていうふうに感じるわけです。その緊張は肉体的なものじゃなくて、精神的なものとも必ずつながっているわけですから。

岸田 なるほどね。

竹内 まあ、今みたいに話をしている時はなかなか分からないです。さっきお目にかかった時に、暗かったでしょう。表情も何も分からなくて、声しか分からなかったですから。

岸田 恐しいなあ、それは(笑)。

竹内 いわば仮説ですけどね、自分の体で感じる。まあそういう事を直接言うこともありまして、他の事やっている内に「ああそうか」というふうに分かってくれることもあるし。

そんなことでポツポツいろんな事をやっている内に、こういう人とこういう所へ来てこうやってお話を伺うようになった……(笑)。(続く)

表紙写真について

青森の石田勝利さんが本年の4月26日に帰幽されたことは、本紙6月号ですでお知らせしました。本紙の表紙写真を何度も提供頂いたので、ご本人を思い出しつつ今号は石田さんの写真を表紙に使わせて頂くことにしました。この写真と一緒に入っていた独特の味わいのあるお手紙も原文とともに紹介させて頂きます。

無断大歓迎

この一ヶ月、毎週500ccバイクで2時間30分かけて十三湖の撮影にハマってます。デジタルカメラにやっと慣れたら、これ程便利なものと狂ってます。(本心)

ついては私

ケイタイ・車・カード無いのです。ポイントカード？ まだ意味分らず。ATM？ 入った事も使い方も？ 消費税(スーパーで買物)計算できず。テレビCM「auお得……」笑ってごまかす。

無断大歓迎
この一ヶ月、毎週500ccバイクで2時間30分かけて十三湖の撮影にハマってます。デジタルカメラにやっと慣れたら、これ程便利なものと狂ってます。(本心)
ついては私
ケイタイ・車・カード無いのです。ポイントカード？ まだ意味分らず。ATM？ 入った事も使い方も？ 消費税(スーパーで買物)計算できず。テレビCM「auお得……」笑ってごまかす。

お客様にはまだバレてない。
(※本人のお仕事は美容師です)

法主・言の葉

自分の肉体が一番たしかかな
先祖からの遺骨である。

じんづうりきによぜ
「神通力如是」の真意をさぐる

第三十八回

大倭教の源流にさかのぼって

今回は前回載せられなかった第37回目の現代語訳を今回分と併せて掲載させて頂きました。また、文末に日蓮や七面大女との出会いに関する法主の文章も参考までに紹介しました。

原文

(昭和16年11月28日 朝7時の続き)

「吾ハ、龍田明神ナリ。

奇稲田姫命ニ御モノ申シ上ゲ奉ル。君七面大天女トシテオハス時^{ワラ}妾^ハソバニ侍ルナリ。何卒其ヨシミモテ今コノ日大倭鷄杜ニ吾レ汝ノ為カシズカム。妾ハ晴雨意ノ如クニナリ。妾ノ役目宣ヒ下サレ候」

「龍田明神力、吾ハ奇稲田姫ナルゾ。ヨーク承ハレ、汝古ヘノ誼ミニヨリ妾^{ワラハ}ガモトニ侍ルナリ。コノ日本ニ仇ナセル惡魔退治ニ汝出カケヨ。雨風ソノカモテ仇ナス者オヒ散ラセ」

龍田明神。

「有難キ御言ノ葉、明神シカト承リ候。カノ及ブ限り盡シイタシマスル」

日聖云ふ。

龍田明神は女神の相也。腹より上部は

人體、下部はどくろを巻く蛇體の相也。顔は実に美容。髪中央で割りおさげ、手は合掌せり。

同日、朝十時、屋内

倭姫、挨拶、神樂。

「吾ハ七面大天女。

梅^{①うめ}菊^{きく}ヨクキケ、汝ハ日蓮ノ母トシテ世ニ出デ候ヘドモ汝等ノ犯セシ殺生ノ罪吾子日蓮ニ及ビ其科^{②しつ}ニヨリ今日ノ日マデ眞ノ妙法唱ヘル事カナハジ。汝其為今日マデ行ナサシメタゾヨ。

君ガ為 吾ガ命 捨ツルハカネテノ覚

悟ヨナ

吾レ天上ヨリ日本ヲミ守リナサム、日本ヲ

(七面大天女ノ歌)

吾レ法ノ會得エズ日蓮ガモトニ変化ノ人トナリ法ヲ聞キシニ参リシ時汝ニ見破ラレ七面山ヘト姿ヲカクセリ。亦タ此度第二ノ日蓮世ニ現ハレ眞ノ妙法説クト聞ク。ワレ七面山ヨリ第二^③ノ日蓮迎ヘニ参ラセ眞ノ法ヲ聞キタリ。コノ上ハワレ末法ノ世ニ眞ノ正法妙法ノ守リトナルハ第

二ノ日蓮ヲ守ル事。姿ヲコソハ変ヘタレド靈ノ働キ同ジナルゾヨ。第二ノ日蓮ニ迫害ヲ加ヘルモノアレバ吾レ指一ツ觸ラサセジ。此度前ニモ申シシガ此度重ネテ申シオク」

倭姫。

「我が日本ハ外國ニ比類ナキスメミマノ治メ玉ヘル有難キ、芽出度キクニデアルゾカシ。コノ日本ニ生ウケテ、出ル者コソ果報モノ。イザ皆挙リテ天皇^{ミコ}ノ為ニハ命モナゲタシテ、我が日本ヲ、マモリマセ」倭姫挨拶

「妾ハ^{③しらぬい}白縫。

ワガ君、昨夜ハ失禮仕リ、神ノ命ヲ待タズ、ワレ一人ノハカラヒニテ出シ為ニ御物語リモ出来申サズ下リマシテゴザリマスル。何卒オ許シアレ」(両手ヲツイタママ)

日聖、云。

註、昭和十六年九月廿三日身延山ヘ日蓮に召されて参る。全日夜七面大天女より迎への使者天女五人来る。依て日聖廿四日七面山に参りたり。

注 釈

① 梅菊

梅菊は通説では日蓮の母親であるが、両親について次のような著述もある。

《両親について、父を貫名重忠、母を梅菊とする伝承がある。(中略)日蓮自身が繰り返す「賤民が子」「海人が子」等と述べていることの意味は重い。やはり、日蓮は漁業を生業とする家庭の出自と考えるべきである。(中略)両親は莊園を所有する領家の夫人(領家の尼)から保護を受けていた。(中略)

領主の夫人から保護の配慮を受けるということは両親は最下層の漁民ではなく、漁民をまとめる立場にあったと見られる。(中略)日蓮が両親をはじめとする漁民の中で成長したことは日蓮の人間形成の上で重要な意味をもったと考えられる。》(論創社『日蓮の思想と生涯』須田晴天)

② 科

科(とが)とは、「①とがめなければならぬ行為。あやまち。②非難されるような欠点。短所。③とがめ。非難。④罪となる行為。罪。

⑤罪によって科せられる罰。処罰。」(岩波書店『広辞苑』による)などの意味があるが、ここでは漁業を生業とすることで魚などの生きものなどを殺生してきたことの罪のことを指していると思われる。

③ 白縫

源為朝は無論歴史上の人ではあるが、また伝説上の人でもある。かの江戸時代の高名な作家滝沢馬琴が著するところの『椿説弓張月』(画は葛飾北斎)によって、一躍江戸庶民の英雄としてもてはやされた。その椿説は珍説であるが

由に荒唐無稽に描かれてはいるが、そこに幾らかの事実が込められていることもまた、事実であらう。その中で、その愛妻の一人として登場する美女白縫もまた、架空の人ともいいがたい。しかしながら、白縫が歴史上の人としてあらわれる書物はほとんど存在しない。ここではその伝説上の白縫を紹介しておくに止めておく。

——平安後期、肥後国阿蘇郡(今の熊本あたり)に、阿曾三郎平忠国という阿蘇、託摩、球磨三郡を治める名領主がいた。美しく心優しい妻がいたが、早く亡くなってしまった。その妻の忘れ形見の一人娘が白縫であった。為人は情深く、利発。またその容貌もすぐれて美しくかった。その白縫は九州を彷徨していた為朝と縁あつて結ばれる。その後、様々な事で離ればなれになる二人であったが、白縫は保元の乱によって伊豆大島に流人として送られていた為朝救出のため、大島に向かい、途中、為朝を裏切り為朝捕縛に手を借した武藤太という者を殺め、その仇をうったということなどがあつたが為朝に会えることはなかった。それから数年して二人はついに阿蘇の地で再会を果たし、しばらく幸せな生活を送り、舜天丸という男児をもうける。その後、平治の乱を経て平家の時代となった京都を偵察を兼ねて、船に乗って一族郎党共々見に行く過程で、瀬戸内海において嵐に遭つた為朝一行は正にその全員が荒れ狂う嵐の前に海の藻屑となる刹那、白縫が日本武尊東征の折の弟橘媛の故事に従い、自ら身を捨てて海を鎮め為朝を救った。ここにおいて白縫の肉身は滅びてしまふのだが、物語では後にその靈魂が琉球の寧王女の身体と一つになって吾が子舜天丸と為朝を助けることになる。——

この様に、物語の真偽はともかく、白縫姫の

為朝に対する真心はかくの如く深きものであることを『椿説弓張月』の中では語られているのである。

現代語訳

(前回の第37回に掲載できなかった現代語訳の分)天照太神「天照太神(宇宙神)が申される。

大倭鷄杜は鳥類の鷄の森ではないのです。昔、天登比人という人がいたのです。その人は奇稲田姫命の御供をして霊界からやってこられたのです。登比人は代々永久にこの地に鎮まつておられて、この奇稲田姫を守るのです。これが後の世の矢追家なのです。その登比人の霊は鷄となつてめでたい日には天に昇り、ピーヒョロピーヒョロと声を出して祝うのです。矢追家という名前は中古よりの名です。ずっとずっと昔より、素戔鳴尊、奇稲田姫命が天(霊界から)降られた時からお供させていたいた者なのです。その登比人の霊は長髓彦となつて世を治め、(後に)賊の汚名をさせられ、悲憤のあまり嘆き悲しんでいるのです。今、この末法の時代に(世に)出て、その腕前を見せてやりましょう。

長髓彦は逆臣ではなく、これは真の忠臣です。世界が逆さまになっているので悪が栄え、善い人は受け入れられず、悪の道は栄え、善の道は廃れてしまったのです。そのために長髓彦は逆臣の汚名を受け未だに悲憤の涙に暮れています。ああ、かわいそうな人です。私はそれを見るに耐えられず、私が日聖として現界に出して、世界立て直しの役目を申し渡したのです。日聖よ頼みましたよ。私達の日本のため、天皇のため、どうか御頼み申し上げます。どの様な迫害があつたとしても、あなたの身には応えることはないのです。あなたの周囲にはそれぞれの神々が守護されており、七

面大天女、奇稲田姫命は倭姫（輪孺香）^{しちめん} となつて（霊界より）降誕され、あなたの仕事の手助けをされるのです。七面大天女も奇稲田姫命の霊（統）、つまり一体なのです」題目

日聖が語る、註一、輪孺香の意

（今回の第38回の現代語訳）

龍田明神「私は龍田明神です。奇稲田姫命にも申し上げます。あなたが七面大天女としておられました時、私はお側に仕えておりました。その縁をもちまして今日の日、大倭鷄杜におきまして私はあなた様のためにお仕え申しあげます。私は天候を晴れさせたり、雨を降らせたり、意の如くにいたします。何とぞ私のお役目をおっしゃって下さいませ」

奇稲田姫「龍田明神か。私は奇稲田姫ですよ。よくお聞きなさい。あなたは遠い昔の因縁によつて、私の傍らにひかえています。この日本に仇をなす悪魔を退治するためには出かけなさい。雨風（を操つる）その力をもつて仇をなす者を追い散らしなさい」

龍田明神「ありがたい御言葉、明神たしかに承りました。力の及ぶ限りお尽くしいたします」

（日聖が語る）

龍田明神は女神のすがたである。腹より上部は人体、下部はとぐろを巻く蛇体の姿である。容貌は実に美しく、髪を中央で割っておさげにし、手



（龍田明神の想像図）

は合掌している。

同日、朝10時、屋内
倭姫、挨拶、神楽。

七面大天女「私は七面大天女です。梅菊よく聞きなさい。あなたは日蓮の母として世に出ましたがあなた達（夫婦）の犯した殺生の罪が、我が子である日蓮に及び、その罪である行為によつて今日の日まで真の妙法を唱えることはかなわなかったのです。そのために今日まで（あなたに）行をさせたのです。」

——天皇（法主）のため、自分の命を捨てるのは前々からの覚悟ですよ

私は天上（霊界）から日本を守ります、この日本を——

（七面大天女の歌）

私は法を会得出来ず、日蓮の元（もと）に人に変化して法を聞くために参った時、あなた（日蓮である法主）に正体を見破られて七面山に姿を隠しました。またこの度は第二の日蓮が現世に現われ真の妙法を説くのだと聞きました。（そこで）私は七面山から第二の日蓮であるあなたを（使者を遣わして）迎えに行かせ（あなたから）真の法を聞きました。この上は私が末法の世に正法妙法のための守りとなることは（すなわち）第二の日蓮を守る事です。姿こそは（あなたの妻である妙月に）変えましたが、霊の働きは同じなのです。第二の日蓮に迫害を加える者があれば、私は（その者に）指一つ触れさせません。この度は（このことを）前にも申しましたが、今回重ねて申し上げておきます」

倭姫「私達の日本は外国には比べるものがない天皇の治めくださっている有難く、めでたい国なのです。この日本に生をうけて、生まれてきた者こそは果報者です。さあ、皆の者挙つて天皇のためには命をなげだして、私達の日本を守ってください」

さい」倭姫挨拶

白縫「私は白縫です。私のあなた様、昨夜は失礼をしました。神の指図を待たずに、自分一人の考えで現界に出ましたためにお話もできずに下がってしまいましたのです。どうぞおゆるし下さいませ」（両手をついたまま）

（日聖、語る。）

註、昭和16年9月23日に身延山へ日蓮に召されて出かける。同日夜、七面大天女から迎えるの使者として天女五人が来る。そこで、日聖は七面山に出かけた。

※法主が七面山に出かけたときの事情を記した文章があるので、参考に引用しておきます。

《私が東京に居った頃であつた。昭和十六年九月二十二日の夜だつた。神拝していると思いがけない日蓮が現れて「至急に身延へ来てほしい。語りたいことがある」と言う。当時私は三十一歳、日蓮が郷里清澄山の旭森で本化の題目を朝日に向かつて唄えた時が三十二歳、何か深い意味があると心得て、明るく二十三日身延へ単身で急行した。息を切らして西谷の御草庵跡へ走つた。（中略）深夜ただ一人御草庵前の石段に単座してゆっくり日蓮と対談したのである。老いやつれた日蓮は時々咳きながら最後に一言「身延は汚れた山なり」と言つて腫をくもらせて立ち消えた。暫くするうちに、白の上衣に緋の袴をつけた美しい五人の少女が前に現れて、「明日は必ずお山へ登つて下さい。七面天女がお待ちです」と使者の伝言を終わつて消え去つた。私はお招きにしたがつて、二十四日七面山へ下駄ばきで上がった。本堂では会えなかったが、引かれるままに辿りついた池の所で七面天女にお会いして、二十五日身延へ下りた》（『やわらぎの黙示』「一大事の因縁——日蓮をめぐって」——120～121頁）

あじさい日誌

8月9日 長崎原爆の日。午前

11時から被爆者萬霊の鎮魂祈願で中島健さんにより大倭大本宮

拜殿の太鼓が打たれました。

8月10日 午前8時から大倭墓

地の大掃除、午前9時より大倭

境内の大掃除が行われました。

午後2時から出口三平さんに

案内されて綾部市の小鷹和雄さ

んが来邑され、林修三さんや岸

田哲さん、杉本順一さん等と歓

談されました。

午後から交流の家でF1WC

定例委員会が開催されました。

8月12日 午後2時から大津市

の福本善洋さんが来邑、杉本順

一さんと懇談されました。

8月15日 午後2時から大倭神

宮で大倭教立教開宣祭が行われ

大倭会文化講演会

日時 令和7年11月9日(日)
午後1時～3時30分(開場12時30分)

場所 大倭拜殿 **入場無料**

講師 盛口 満 氏

(沖縄大学文学部こども文化学科教授)

「沖縄から自然と人間のあり方を考える」

～ 学校という場で僕が教わったこと。
ものとひとの歴史～

自然の力と私たち人間のあり方を一緒に考えたいと思います。特に近年の酷暑と局地的な大雨など地球の環境で、人にとって自然との関係は、かつてどうであって、今、どうなのかなど興味深いお話をさせていただきます。



プロフィール:1962年千葉県生まれ。

千葉大学理学部生物学科卒。自由の森学園高校の理科教師として15年勤務。2000年に沖縄に移住。教員のかたわら、自然に関する一般向けの本を書いている。現在、沖縄大学文学部こども文化学科教授。主な著書に『めんそーれ化学』(岩波ジュニア新書)、『沖縄の生き物』(中公新書) など多数。

ました。
8月19日 奥津斎庭の古木が傾き金剛大龍王さんの寢床にかぶさってしまったのでこの古木を小切りに分けて斎庭の土に戻されることになりました。

8月22日～24日 交流の家でサマーズキャンプが行われ、子どもが13名参加。水遊びやゲーム、花火などを楽しみ、今年も土師部の杜のお掃除を手伝いました。また、菅野台の夏祭りがあり、神輿を担がせてもらいました。

8月23日 午後2時から大倭大本宮の月次祭が行われました。

8月30日 午後5時から本紙『おおやまと』の編集会議が教務本庁で開かれました。

8月31日 静岡の松本直之さんが来訪、大倭会館で一泊されました。

9月4日 本紙『おおやまと』の編集会議が開かれました。

9月6日 10時30分から大倭神宮の月次祭が行われました。

11時30分から祖霊祭及び東光大祭が行われました。

祭典後大倭会館にて遠方からの祭典参加者など、旧交を温めました。参加者約19名。

8月21日(デイ)祭囃子が流れる中、提灯が吊るされたフロアで法被に鉢巻きを締め、デイサービスの夏祭りをいっぱい楽しんでいました。

8月25日(特養)フロアにて納涼祭としてかき氷レクを行いました。職員も浴衣を着て参加しました。

8月21日(茂毛路園)

8月21日(茂毛路園)の日に、岩手県

のグルメメニューを頂きました。メインは盛岡じゃ

じゃ麺で、岩手県に旅行した気分を味わって頂きました。

8月28日 定例懇談会を出会いのホールで開催、今回は介護体験で来ていた大学生にもお話しして頂きました。

9月5日 あじさいホールで茂毛路園秋祭りを開催。入居者に職員手製のアトラクション(魚釣りゲーム・ボール入れゲーム)を体験して頂き、屋台は、かき氷・ベビーカー・カッ

トフルーツ・ミニお好み焼き)を美味しく頂いてもらいました。最後に記念写真も撮り、お祭りの雰囲気を楽しみました。

8月26日 レクリエーションで、久しぶりに輪投げをしました。はじめはやらないと言っ

た利用者も「私も!」と参加大変盛り上がりしました。

いた利用者も「私も!」と参加大変盛り上がりしました。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。



奥津斎庭での祖霊祭

から歌ったり、「炭坑節・大阪ラブソング」は囃子を鳴らしながら歌いました。

(長曾根寮)

8月21日(デイ)祭囃子が流れる中、提灯が吊るされたフロアで法被に鉢巻きを締め、デイサービスの夏祭りをいっぱい楽しんでいました。

8月25日(特養)フロアにて納涼祭としてかき氷レクを行いました。職員も浴衣を着て参加しました。

8月21日(茂毛路園)

8月21日(茂毛路園)の日に、岩手県

のグルメメニューを頂きました。メインは盛岡じゃ

じゃ麺で、岩手県に旅行した気分を味わって頂きました。

8月28日 定例懇談会を出会いのホールで開催、今回は介護体験で来ていた大学生にもお話しして頂きました。

9月5日 あじさいホールで茂毛路園秋祭りを開催。入居者に職員手製のアトラクション(魚釣りゲーム・ボール入れゲーム)を体験して頂き、屋台は、かき氷・ベビーカー・カッ

トフルーツ・ミニお好み焼き)を美味しく頂いてもらいました。最後に記念写真も撮り、お祭りの雰囲気を楽しみました。

8月26日 レクリエーションで、久しぶりに輪投げをしました。はじめはやらないと言っ

た利用者も「私も!」と参加大変盛り上がりしました。

いた利用者も「私も!」と参加大変盛り上がりしました。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

あんない

*月次祭(大倭神宮)

10月6日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催祝会

10月12日(日) 午後2時より大倭拜殿にて。

*月次祭(大倭神宮)

10月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大倭大本宮)

10月23日(木) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

▼岡山県真庭市 湯浅芳郎

鳥には帰巢本能がある。燕について行動を述べると、毎年南方の島から何万キロメートルも飛来し、我が家の納屋の巣にやって来る。そして3、4羽の子を育て帰っていく。

毎年来るのだが、生きものであるの親鳥が鳥で死ぬことはもちろんある。だが、その子の燕が前の年と同じように我が家の巣に飛来する。親から子に伝達されるのだ。これを超能力と言わずしてどう呼ぶか。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。

この超能力の燕が来る家は火災が発生しないと言われている。